



題字 廉隅 進

## 第 56 号

明治大学体育会  
ワンダーフォーゲル部  
なため会会報

## 半世紀ぶりの再会

## 四学年合同同期会報告

BN 727 藤本 俊明

昭和四十四年度卒（1969）から四十七年度卒（1972）の4学年のOB・OGのメンバー二十六名が東京駅のある場所で、約半世紀ぶりに再会しました。

この集まりは、昭和四十四年度卒の西島主将、野島主務の掛け声で開催されました。遠くは、岡山、香川、秋田、岩手、新潟県から馳せ参じ、年に似合わず飲み放題に制限時間なしの会場に臨みました。四十九年度卒の諏訪本監督さんも特別参加いただきました。

これまでの同期会と言えば、当然同じ卒業年度の集まりで、年度を超えた会はなかったと聞いています。この年代の学生時代は、高度経済成長期であったものの、大学の紛争が盛んな時で、学内は立て看板やヘルメット学生や闘争旗で騒然とした時代でした。

想を聞きました。

四十七年度卒の六名から今回の懇親会の感想を聞きました。

〇「一氣に現役当時の年に戻ったようでした。各テーブルで話題が尽きませんでした。それでも四十数年が経った今でも先輩は先輩、風格を改めて感じました。」

〇「四十代五十代は仕事や家庭のことについて。仕事からリタイアし六十代を過ぎた今がしがらみもわだかまりもなく集まれたと思います。午後一時から六時ごろまでよく飽きずに話せたと我ながら感心しています。付き合ってくれた先輩に感謝です。」

〇「一年部員にとって四年生は雲の上の人、夏合宿までの短い期間なのでキャプテンの西島さんとは現役時は話したことがありません。親しくお話できるとは…先輩のほうがおむしろ懐かしく感じていたようでした。」

〇「懇親会場に入って、すぐに現役時代の顔と名前が一致できた方、あれ、誰だった？名前が出てこない先輩も何人か。そのうちに〇〇さん、△△さんと判明。下級生から

参考までにこの年代の夏合宿を紹介しますと、昭和四十四年は四国（BCは高知興津海岸）、四十五年は南東北（同山形県朝日岳山麓）四十六年は北陸地方（同岐阜県御母衣ダム）昭和四十七年は北東北（同青森県八甲田山麓）でした。



見ると先輩は分かるのですが、逆に上級生から後輩を見てもどの誰だか見当がつかないと思います。それでも同じ飯盒の飯を共にした間柄です。半世紀のブランクは瞬時に埋まり、青春の山野に思い出が広がっていくようでした。逢えて嬉しい限りです。

た。」

○「案内が来た時、このような集まりなんて、珍しいなと思いました。上級生にはもう会えないと思っていたから逢えてよかったです。この機会を逃しては悔いが残るぞと：万端を整えて参加しました。一年部員の夏合宿等で受けた不可解な「正座」の真意を糺そうと意気込んだものの、握手でゲームセット、恩讐は何処へやら。四年間ワンゲルを辞めずに頑張りぬき、今OB同士としての縁を感じた懇親会でした。」

○「とにかく皆さん元気です。そうでない方もありましたけれど、元気をもらったと思います。私自身、何をしゃべったか五時間に短く感じました。仕事や職場の話題は既に過去形のようなです。現役の各養成Wや夏合宿、スキー合宿、草津小屋や手白沢小屋のこと、皇居周回のトレーニングなど、当然ワンゲルのことが現在進行形のように甦ってきました。この時間だけは四〇歳も若返りました。」

以上がそれぞれの感想でした。「先輩に会えないと諦めていました。参加してよかった。」「東京オリンピックの年にも日本の健闘を祈って集まろう。」と勝手に後日提案しておりました。

共通していることは、一気に若返ったように感じたこと。

互いに健康寿命を祈念し合ったこと。そして久しぶりの再会が、新しい出発点に立てた

ような気がしました。お互いにありがとうございました。

## 渡り鳥

昭和44年度入部 津国 次正

スポーツ部は中学生の頃に3年間テニス部、高校の時は何とせす無気力になっていた3年生の時にバレー部に誘われ1学期だけ在籍しました。大学に入り何らかの理由でワンダーフォーゲル部に入部しました。生田の売店前の広場に机と椅子を並べて勧誘していた時に安部秀樹さん(BN<sup>71</sup>)と顔が合い、その時の色白で少し憂鬱そうな姿を今も覚えています。

一年の時は山でよくバテてしまいました。山に行くのはバテに行くようなものでした。体力と精神力の弱さからだといえ強くなるうと頑張りましたが、今になって考えればバスなどの乗り物酔いが原因だったのかもしれない。バテて苦しい状態が続き続けなくなりましたが、意識ははっきりしていて数十分の休憩で体力が回復して前進できました。乗り物酔いは今もバスやタクシーで経験しています。それでも丹沢の表尾根を日帰りで全ルートくまなく歩き、ガイドブックの登山ルートコースを塗りつぶしました。昨年、12年の時に同じ班だった福本利直さん(BN<sup>72</sup>)の車でヤビツ峠に45年振りに行きました。が、想像していた昔の面影はなく、ハゲ山だっ

たのが緑の木々に覆われていました。昔たびたび登った山に再び行きたいとの思いがかなえられました。

二年の時にスキー合宿で足を痛めました。が、若気の至りで病院に行かなかったことが原因で右足首の筋を痛めてしまい、重い荷物が担げなくなったので退部してしまいました。今も少し痛みますが、足から腰に来たのか、2年前と今年の2回、腰の圧迫骨折をきたし、それぞれ6か月と2か月の安静療養を経験しました。夏は毎日泳いでいましたが、療養後に足の届く砂浜でクロールの練習をして、うまく泳ぐにはいかに力を加えないでダラーとした状態になるかではないかと気づきました。が、腰を痛めたので今もうまく泳げません。

現在は農業でミカンを栽培しています。先日のワンゲルの集まりにもレモンを送りました。今は20本程ですが、来年は町の補助金で苗木を35本買い増します。自然の力にはかなわず雑草や害虫に負けています。農業の盛んな地域ではないので、良い環境での農業生産ではありません。近年はワンゲルの先輩だった相沢篤さんの影響から、鳥や草花に興味がいくようになりました。白い翼の力ラスを見たり、11月頃まで鳴くウグイスも見たりしました。昨日は冬鳥のジョウビタキを見ましたが、今日はミカン畑を素早く飛んでいました。平成26年の9月に生田で同じ学年だった山崎正信さん(BN<sup>73</sup>)から40数年振り手紙を

いただき、その後は毎朝メールを交換しています。山崎さんと福本さんが3年前に生名島を訪ねてくれ、一緒に付近の島々の山を登りました。昨年は佐藤隆夫さん(BN72)と福本さんと一緒に山崎さんの住んでいる静岡へ観光に行きました。今年は山崎さんと福本さんの自宅に泊めていただき、名所旧蹟を見学しました。

因みに私のメールアドレスは、tuginasat@canet.plala.or.jpです。グループ名「MWV」でメールを発信しています。

## 企画振興部「丹沢湖畔ファミリーキャンプW」ご報告

企画振興部 BN 871 平田 正博

10月28日(土)から29日(日)で世附川ロッジにて「丹沢湖畔ファミリーキャンプW」を企画開催しました。

普段であればなため会Wは企画振興部でお世話させていただくのですが、今回は企画振興部以外の若手(と言っても40代以上)のOBや現役2名の応援をいただき、下準備から食事会の盛り上げ役までのほとんどを担っていただき大変に助かった次第です。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。この企画の中で特に古参OBといたしましては若手OBや現役との交流が何より新鮮で楽しいものである事を実感いたしました。

中でも秋元OB(594)は奥様同伴、鈴木(幸代)OG(719)は9歳のお孫さん同伴でご参加いただき、今回のWに花を添えていただいたのと同時に参加者の皆様に対しても楽しい時間を提供いただきました。また、荻原OB(1113)の山での活躍も山好きOBの代表として面目躍如と言ったところであります。



左から2人目がこのロッジオーナーの前田OB

また、普段なかなか参加できないOBも同期で夜通し語り合おうという事で遠くは四国からの参加もありまして、今後のため会Wの一つの方向性として一泊のバーベキューキャンプ形式もありかなという感触も得ました。今回ベースとなりました世附川ロッジが前田OB(1106)の経営という事もあり、様々便宜を計って戴いたことも安全に安価に快適に過ごせた大きな要因の一つと考えております。

OBの方々には山から遠ざかっている(山嫌い?という)人も多い中で、普段着やサンダル履きで簡易に自然と触れ合う場を提供できる可能性をもっと追求していこうという気になっております。あとは若手のOBの方々にも気兼ねなく参加していただける企画をひねり出さねばならないと思っておるのですが、なかなか良いアイデアが湧かないものですから、どんなご意見でも結構ですのでお聞かせいただければ大変に有り難く存じます。

最後になりますがご参加の皆様と関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

参加者 25名(敬称略)

|         |         |        |        |                   |           |           |              |
|---------|---------|--------|--------|-------------------|-----------|-----------|--------------|
| BN 1064 | BN 865  | BN 835 | BN 751 | BN 719            | BN 681    | BN 505    | 参加者          |
| 井上 堅一   | 平田 正博   | 猪狩 稔   | 諏訪本充弘  | 鈴木(橋本)幸代(お孫さんご同行) | 大賀 徹雄     | 椎橋 稔      | 25名(敬称略)     |
| BN 1106 | BN 897  | BN 860 | BN 775 | BN 705            | BN 594    | BN 594    | 秋元 道別(奥様ご同行) |
| 前田 裕司   | 山下 仁志   | 谷脇 嘉徳  | 小田野義之  | 杉山 裕              | 道別(奥様ご同行) | 道別(奥様ご同行) |              |
| BN 1113 | BN 1060 | BN 795 | BN 728 | BN 728            | BN 728    | BN 728    | 横尾 廣志        |
| 荻原 健一   | 小野崎泰寛   | 濱田 稔   | 廣志     | 廣志                | 廣志        | 廣志        |              |



BN 1115 上原 誠 BN 2120 鈴木 元典 現役福澤 光浩  
現役伊藤 悠人

## ロッジの思い出

BN 1106 前田 裕司

卒業後、一度もなため会の活動に参加していなかった自分が3年前の総会からお邪魔するようになりしたのは自分が経営するロッジを皆さんに使っていただきたいと思ったからです。今回はこのような私利私欲を叶えてくださり、諸先輩方には感謝申し上げる次第です。

このような不純な動機にお仕置きをするかのように当日は雨のスタートとなりました。前泊された平田先輩と朝9時頃、JR谷峨駅にお迎えに行く時は小雨がパラついておりましたが、勇敢な先輩方は大野山目指して出発されました。小学3年生のお孫さんを連れた鈴木先輩は登山を諦め、ロッジに直行することになりました。

さてロッジに着いても雨模様ではすることが無くお困りの様子でしたのでバウムクーヘン作りを提案させていただきました。ホットケーキミックスに卵、牛乳、砂糖、バターを加えてドロドロの生地を作ります。いくつも生卵を割るのは初めてというお孫さんも頑張ってくれました。その間に前田は炭火を起こし、φ8cm程のマダケを用意しました。これにドロドロの生地を塗っては炭火で焼い



バウムクーヘンも美味しく焼きあがりました

ていくという動作を繰り返します。しかし、生地はドロドロですので塗った側からタラタラと垂れてしまいます。炭火の上で垂れないように竹の両端を二人で持つて回転させます。最初は早く回さなければなりませんが、生地が乾いてくるとゆっくり回して大丈夫です。7回塗ったところで生地がなくなりましたが、先輩と御孫さんは手や腕がかなり疲れたようです。

丁度お昼です。雨はやや強くなり、登山チームが心配ですが、そんな心配を他所に先着された先輩方が炭火を囲んで宴会を始められています。先ほどのバウムクーヘンは冷えて生地が締まってしまったので竹から取外すことにしました。まず、竹の片側をバウムクーヘンの側で切り落とします。一人がバウムクーヘンをキッチンペーパーで抑えて、もう一人が竹を持ち、二人が反対方向に竹を回して取



外します。上手く外れ、切ってみますと見事な年輪模様が現れました。「ワァー!」と歓声が上がります。お孫さんも満足そうでした。

当ロッジはBBQをするだけではなく普段はできない石窯料理(パン、ピザなど)や流しそうめん、鱈のつかみ取り、木工体験など多彩なプログラムをご用意して皆様のお越しをお待ちしております。「世附川ロッジfc2」で検索してみてください。

## 丹沢湖畔ファミリィ

## ワンデルングに参加して

BN 1113 荻原 健一

実施日：2017年10月28日～29日

BN 1113（平成4年度卒）の荻原です。早いもので卒業以来25年の月日が経ってしまいました。が、なため会主催のワンデルングに初めて参加させて頂きました。なため会のMLに登録していることから定期的にWを実施していることは認識していましたが、他の多くのOB同様になかなか参加のきっかけがない中、今回は同期の前田OBが経営する丹沢の世附川ロッジを利用することだと思う手を挙げてしまいました。

今回はBN 871の平田OBの企画でA、B、Cコースが用意されていましたが、一番ヒールが美味しく飲めそうなAコース（ワンデルング付き）にエントリーさせて頂きました。私自身は今も社会人山岳会に現役で所属しており、丹沢の裏山を数時間散歩するくらいの軽い気持ちでルートもろくに調べずに参加したのですが、なかなかエキサイティングなワンデルングと相成りました。

JRの谷峨駅に9時頃に集合していざ出発です。メンバーは最長老のS 38年度卒BN 505の椎橋OBを筆頭にBN 600番台から800番台までの大先輩方6名と鈴木善次郎前監督の御子息と私を加えた総勢8名です。大野山の山頂

まではコースタイム通り1時間30分程度で到着。山頂でコーヒータムとなり和やかな時間を過ごしました。そこから本日のお宿となる丹沢湖を目指して下って行くのですが、林道から登山道に入る入口を見つけられず、そのまま地図上にはない林道を延々と進んでしまいました。随分と行ったところでさすがにお



かしいということになり来た林道に戻ったのですが、尾根上の登山道に上がる道が分かりません。ここで大先輩方とのコースマネージになってしまいました。この日は大型の台風が近づいていて雨もいよいよ強くなり、いつもはザックの底に入っているツエルトも今回は丹沢の散歩コースだからと入っておらず、このメンバーと装備で台風の一晩を越すのは……などと考え出すと私的にはエキサイティングで楽しい山行になって来ましたが、しかしながら残念なことに？私が先行して様子を見に行った踏み跡がどうやら登山道に合流することが分かり、台風ビバークの目論みは露と消えてしまいました。登山道に戻ってからは順調で丹沢湖に無事降りて最後は記念館から車でロッジまで送って貰いました。

ロッジに入ると早めに入って準備頂いていたOB諸氏や現役2名、Bコースの面々などに温かく迎えて頂き総勢24名でのバーベキュー大会となりました。散々飲んで、散々食べて、散々昔の歌を歌って、みなさん最後は怪獣になってしまいました。

翌日台風による大雨の中での解散となりましたが、前田OBの素敵なロッジのおかげで快適でした。

なため会と会を支え続ける大先輩方のおかげで、大変楽しくそして懐かしい匂いと青春時代のちよっぴり苦い感じを思い出せた週末のひと時でした。

## ■2018年度なため会ワンデルングのお知らせ

2018年度は、多くの老若男女、地方の会員の参加ができるワンデルングを企画します。手軽に歩けたり、美味しい食べ物を食べたりと、健康づくり、会員同士の親睦に、皆様の参加をお待ちしております。

| 日程              | 場所    |
|-----------------|-------|
| 5月18日(土)        | 湘南W   |
| 7月28日(土)～29日(日) | 秋田W   |
| 10月20日(土)       | 鎌倉W   |
| 2019年2月2日(土)    | 富士山周辺 |

## 番外編

○秋の東京六大学野球観戦(9～10月)

○ラグビー明早戦観戦(12月)

※企画振興部へのご連絡は左記のアドレスへお願いします(企画委員全員へ転送されます)。

kkaku@natamekai.org

## 「神奈川県の山」を登って

BN 888 関口 健二

「山と渓谷社『神奈川県の山』掲載全座完登」をSNSにUPしたら編集長から「薫風に」と依頼あり。日本百名山を制覇されたOBもいらっしゃる中おこがましい限りだが、赴任メモリアルとして載せて頂く事に。

剱岳から見る日本晴れの天空が如く、広い心でお許し頂きますようお願い申し上げます。

「来月から藤沢で勤務して下さい」と言わ

れて皆さんは何から準備します？まさかのサーフボード？私は「神奈川県の山(山溪)」を一番に用意し、布団の中でページを捲りながら「丹沢山から眺める富士山」を妄想し二マニマする出発までの日々でした(笑)。

鎌倉源氏山から西丹沢三国山まで三年半。

「神奈川の山を全部登ろう」なんて気はサラサラ無かったんですよ。長い赴任(まだ継続中)になるなんて思っていなかったし。でも半分登ったら「折角だしなあ」、三分の二登って来たら「やるしかないよね」てな感じ。年頭に「秋頃にはそろそろ移動かな？」と仕事スケジュール、日照時間を考慮し、三月…1本、四月…2本、五月…1本、六月…2本、七月…1本、八月…1本、九月…1本、十月…2本。

残りの山をビッチリ組んで登った(仕事もこれくらい忠実なら今頃は…)。憧れの蛭ヶ岳は「雨」とわかっていても休みシフト上、無理矢理。「ヤマビル」に絡まれながら…。

原則「平日休み」なので「単独行」。それ故に気分が乗らなければ止めて二度寝。嫌々登っても事故の元ですからね。バス停から山中、バス停まで。誰とも会わないのが常。当然山小屋泊まりもガラガラで尊仏山荘では他3人、蛭ヶ岳山荘では他1人、畦ヶ丸避難小屋は独りぼっち泊(あっそうそう、富士山宝永山荘に泊まった時も48個枕が有る部屋に一人でした)。山小屋で「気遣い不要」は肉体的にも楽なので「山は平日に限る」。



一応家族にはネット「登山のコンパス」でコースと下山は報告していますが事故ればそれまでなのが「単独行」。理由はいろいろですが、「技術と体力」に自信が無いので同行者に何か起きても助けられない。それ故の「単独行」なのです(山岳救助保険には加入)。「単独行」で気儘だったから登れたのだと思います(山行つけない休日は夕方四時から家飲みしているし、やっぱり山行った方が「健康&健全な休日」だな。下山後は駅ホームで人目にせず腹一杯飲んでますが笑)。



コースは掲載されている半日コースを二つ繋いで日帰りで登るのが通常プラン。最後は「泊コース」ばかり残り、尊仏山荘と蛭ヶ岳山荘と蛙ヶ丸避難小屋宿泊。

以前から下りが弱点で、午後1時から必ず膝周辺と太股裏が悲鳴を上げていた。「膝が悪い」「膝に負担を掛けないように」とずうーと膝を伸ばさず登っていたが雑誌「山と溪谷」に「膝を延ばして骨を使って登らないと（重心移動しないと）膝周辺筋肉に疲労が溜まる」とあり、目から鱗。意識し、それから登り方を変えたら効果靚面。日没までしっかり歩け、3日ぐらに残っていた筋肉痛も皆無（あくまでも「個人の感想」です）。

日々粗食自炊生活で体重が6キロほど落ちた半面、（遊ぶための）フットワークが軽くなったのも大きい。以前は一本目レストまでに「身体中の悪い物質が汗と一緒に流れ出ている」感じで最初からバテバテでしたが今はそれも無し。夏に帰った時、学生時代に買った紫紺横縞ラグビージャージに袖を通したらナント着れたではないですか。先日の明早戦は着用応援した甲斐あって快勝、喜び二倍。

卒部と同時に「山」を止め、50歳で諸先輩に誘われて「阿曾原温泉小屋 水平歩道」から再開。学生時代は登る山の歴史や民俗に全く興味は無かったですが、歳を重ねてからの「山」は下山してからも楽しい。特に神奈川県、いわくありげな地名ばかりでちよっと歩けば頼朝や曾我兄弟、後北条氏、三浦一族、吾

妻鏡、旧街道、坂田金時などなど沢山の歴史と温泉がある。下りては図書館へ行き、気になった事を調べ、それがまた次の山へと繋がって、「点」だった山が次々とリンクしてゆく。まるで「一等三角点から二等、三等を決めて山を網羅してゆく」ように。とにかく面白い。「高さはかりが「山」ではない」。こうした「山の愉しみ方」が出来るのもワンダーフォーゲル部に在籍した故だと思う昨今。

塔ノ岳に登れば丹沢山へ行きたくなり、丹沢山に登れば蛭ヶ岳へ行きたくなる。山が見えればその山が「次に登る山」。不思議なもので、行ったことが無い山々を下界から眺めると「ただ（名無し）の山」なのだが、一度登って下界から見ると「あれが金時で、あれが明神。するとあれが大山で…」と名前がわかる。まるで「手を握ったおねえちゃんの名前はすぐに覚えらるる」という「キャバクラの法則」と同じ（一応宣言します！鎌倉は四季折々訪ねておりますが、キャバクラは行った事ございません。神に、否、大仏に誓って…。あくまでも聞いた話でございます）。

さて、キツかったランキング（歩数は下宿から下宿まで）

①2015年2月3日（8時間39分）

50,001歩

寄：水ボッカのオマケ：鍋割：塔ノ岳：ヤビツ峠（冬季は夕方バス運休…泣）：蓑毛

②2015年8月7日（8時間12分）

48,793歩  
鎌沢：生籐山：陣馬：景信：小仏峠：高尾山

③2015年10月27日（8時間13分）

45,872歩

谷峨：大野山：高松山：ジダンゴ山：寄「もう一度同じコース行きますよう」と誘われれば、答えは「NO」。行くにしても半日コースでのんびりと登りたいです。

そして、怖かったランキング

①松田山でヤマビル達に初遭遇。何の準備もしておらず最初は「尺取り虫？」と思った。インディージョーンズ並みの迫力に、何故か「裸足で逃げ出したい」衝動に駆られた。

②丹沢山から塔ノ岳への稜線ですれ違った人に「今そこで熊と目が合った」と言われ、学生以来、息も絶え絶え歌いながら登った。おすすめコースは

Each in its own way was...unforgettable

It would be difficult to...

Roman full Miura Peninsula.

By all means, Roman full Miura Peninsula

I will cherish my visit here

in memory as long as I live.

「一番思い出に残った山はびびりたか？」

「いずこの山もそれぞれに素晴らしく……それは浪漫溢れる三浦半島です。」

なんといつても浪漫溢れる三浦半島です。

私はここを訪れた思い出を一生大切にすること

とでしよう。」

丹沢の山々は言うに及びませんが、三浦半島の低山が実にイイのです。ゆつくり起きて、のんびり「山でも行くかぁ」と10時に下宿を出ても一山登れる。二百メートル程しかありませんが、自然豊かで実に静かなのです。下りれば観光スポットも山盛り。是非に！

住まいしている石川や生まれた富山の「気になるあの場所、気になるその事」を元気なうちに「歩いてみたい、調べてみたい」と思う今日この頃（そろそろ帰りたい？笑）。

「早く次の目標見つけないと呆けるぞ」と心配する声も頂きました。ホントそんな感じ。感謝があります。これからご指導ご鞭撻、ご愛読のほど、お願い申し上げます。

## 「五三会」のいつ

BN 835 猪狩 稔

昭和50年4月入学、54年3月（53年度）卒業の私たちは同期会名を五三会（ごつつあかい）と名付けました。先輩に奢っていたいた時の「ごつつあんです」と「五三」の語呂合わせであります。昭和50年は「22歳の別れ」や「昭和枯れすき」「港のヨコヨコハマヨコスカ」などの曲がヒットし、夏には掛川のつま恋で吉田拓郎十かぐや姫の野外オールナイトコンサートが開催された年であります。行きたかったのですが、1年部員にそのような余裕は無く、涙を流しました。



ファッションではトレンチコートが流行り学生服の上に着用している姿を多く見かけることができました。

5月には田部井淳子さんが女性世界初のエベレスト登頂に成功された後から知りました。私は入部するまで一度も山に行ったことが無く、入れてくれる体育会の部が在ればどこでも良く、和泉のオリエンテーションで挙動不審者のように歩いていたところをスカウトされ見事伝統あるワンダーフォーゲル部に入部する事になりました。

同期で80名以上入部し、夏合宿で半減、卒業時は21名（内女子5名）が無事バックルを

いただくことができました。東京出身は私と他に2名のみで現在もほとんどが地方在住者となっております。全員が還暦を過ぎて同期会で集まればご多分に漏れず持病の品評会のようでありますが、昨年は紅葉真っ盛りの「妙高高原」で休暇村妙高の支配人の田中君のお骨折りによって笹ヶ峰、いもり池などの散策でみなで絶景に触れることができました。

われわれは4年間、合宿で一度も北海道に行くことが許されなかった代であります。「一度いきたかったなあ」が本音ではありますが、それもまた五三会らしいのかな？とも思っております。次回は秋田での開催を予定しております。村木、頼んだよ！

## 四国お遍路について

BN 860 谷脇 嘉徳

私は高知県宿毛市という四国西南部の小さな町に生まれ、大学進学と転勤で東京に一時在住した以外は、四国各地を転勤で転々としながら今年60歳を迎えました。現在は愛媛県松山市に住んでいます。同期で「なため会」幹事の平田から地方OBからの情報発信をという話があり、創部80周年の時も同じこといわれて原稿書いたなあ。と心の中で呟きながら、四国の人間として我が部の活動に通じるところのある四国遍路についてご紹介しようと思い立ちました。

私は子供の頃からお遍路を身近に見て育ち



ましたが、子供の頃の昭和40年前後の彼等に対する記憶は「貧困」ではなかったかと思えます。当時の彼等の姿で最も印象に残っているのは、軒先で念仏を唱えながら托鉢をする姿です。それは、その家の住人が喜捨を施すまで延々と続きます。私の家内は同郷で同級生ですが、農家の娘であつた彼女にも、子供の頃、祖母から言われ米を喜捨した記憶があるようです。当時、日本は高度経済成長真っ只中だつたはずですが、その恩恵は十分に行き渡つていなかったのかもしれない。そして、いつの頃からか托鉢をするお遍路の姿は消え、大型バスに乗つた観光遍路が大勢を占めるようになりました。現在は、それが夫婦、友人などの少人数のグループや独り遍路に変わり、最近では外国人遍路の姿も目に付くようになりました。独り遍路の中には私と同輩の男性が多いのですが、人生の過渡期である60歳代になり、来し方行く末に思いを巡らせているだろう彼等の姿に自分自身が重なって見える気がしています。

それでは、四国遍路をご紹介します。今の香川県で生まれた弘法大師空海が1200年を超える昔に修行したといわれる場所や、その足跡を巡礼することを四国遍路といえます。1番札所から88番札所まで約1,400キロ、全て歩けば健脚の方で45日、ゆっくり歩くと約2ヶ月かかるといわれています。ただし、車やバイク、自転車、レンタカー、公共交通機関など様々な交通手段を使つてお遍

路をすることも可とされ、1番札所から順番にお参りをしなければいけない決まりもないようです。とは言いつつも、なため会のメンバーには釈迦に説法ですが、流した汗の分だけ得られるものは大きいはず。ご自分の体力とご相談ということになりますが、出来るだけ歩き遍路の比率を高めることが遍路旅の意義を高めることにつながります。良くてきたもので、1番札所霊山寺(徳島県)から6番札所安楽寺(徳島県)までのコースは、徳島空港からも近く、歩行時間5時間程度で足慣らしコースとされています。まずは、1番札所から参拝をすることをお勧めします。



徳島県の1番札所「霊山寺」から最も遠方(324km 先)にある愛媛県愛南町の「観自在寺」

私のお勧めコースは、高知県東部、室戸市の最御崎寺を始めとする3寺。この地で空海は修行をしたといわれています。空海が寝起きして修行をした御厨人窟からの視界の先は空と海のみ。空海の名前の由来といわれています。太平洋の荒々しい波が打ちつける景色は雄大で、天気が良ければ高知、徳島までの海岸線を遠望することができます。ただし交通の便が悪い上、隣の札所までの距離が非常に長い。歩き遍路には相当の覚悟が必要です。次に藤井寺(徳島県)から焼山寺(徳島県)のコース。一転ここは山道ですが、「遍路ころがし」といわれ遍路が転落するほど険しいコースとされています。というのは少し大げさです。なため会のメンバーであれば、恐るに足りない山道です。

四国遍路は装束にも寛容で、普段着でもOKです。しかし、白衣や菅笠を身に付け、金剛杖を持つてこそ周りからお遍路と見てもらえます。四国人の「お接待の心」はお遍路に対して特に強いと思います。お遍路が何か困っているのを見かければ、大抵の人は声をかけてくれるでしょう。多分。また、遍路道の所々には遍路小屋や休憩所があります。例えばコンビニの軒先やハウス園芸農家のビニールハウスの一角がお遍路用の休憩所として提供されていたりします。残念ながら私はテレビで観ただけですが、接待所といって軽食やお茶、お菓子で接待をする有志の方もいらっしゃるそうです。四国の人達は皆人情細

やかで優しい人ばかりなどとは毛頭思っていないませんが、お遍路に対しては特別扱いのような気がしています。遍路旅での宿泊は、お寺が営む宿坊やお寺の近隣にある遍路宿に泊まるのが一般的だと思います。宿坊での食事は精進料理で、朝にはお勤めと法話があるようです。非日常を体験できるのも遍路旅の楽しみのひとつだと思います。

そして、八十八ヶ所を全てまわり終える。それを結願けつがんといいます。同行二人。遍路の旅には常に弘法大師空海が共にいてくれているという意味ですが、結願を迎えた時、弘法大師は遍路に何らかの教えを授けると私は思っています。これを読んで遍路の旅に出て結願を果たした方は、是非、薫風に投稿してください。待っています。

## ナマステ、印度共和国

BN 746 松井 幸市

私は現在、インド初の高速鉄道で日本の新幹線方式が採用されたMAHSR(ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道路線)プロジェクトに海外での地下鉄工事の経験を生かして建設専門技術者として参加しており、200名近い多職種の専門技術者(日本人+米英人若干)とサポートしてくれるインド人スタッフの人達と共同で業務を行っています。

↑ここからはご存知、フーテンの寅さんの口上でお読みください。



金波、銀波の浪超えて、台北・新加波・香港と、行方定めぬ股旅暮らし。陽光煌めく比律賓で、ルソンの「ハリマオ」気取ってみたが、時代錯誤と無視されて、もったバナナも喰い詰めて、流れ流れて10年目、ここは亜細亜の西の果て。顔は元より色までも、染まってしまったこの頃は、ムガル帝国印度の民に、「ナマステ、我が同胞!」と迎えられ、サンダル一つでデリーの街を、彷徨い歩くこの姿、日本人だと誰が知る。



【India today】

・PM2.5がものすごい、中国なんて比ではない、その3倍はゆうにある。3日間、車は規制、工事は中止、子供は休み、大人は仕事……。

・通勤時今日は車の進みが悪い、原因なんと牛のカップルのお散歩。インドでも「触らぬ神に祟りなし」。(ヒンドゥー教、聖なる牛)

・電力事情が厳しいためか、交通信号がたま



り無い。道路横断時は迫りくる車の列を横目ににらみ、集団でゆっくり渡って身を守る。運転の車もそこは慣れたもの、サッと別れて避けていく。(日本でやれば事故の元、物を避ける運転クニックがすごい)

・ホテルのバイキング、どの鍋開けてもカレーの匂い。Is this all the same one? No! No! Mr「豆カレー」「マートンカレー」「ベジタブルカレー」「トマトカレー」汗 汗 汗 身体中から噴きあがる。

・昨日朝、地下鉄駅前の道路を自転車に



タージ・マハルの壮麗な姿

交じって猪が1匹。まっすぐ前見てわき目も振らず、交通規則を守って通勤していた。とうとう脳にきたかとうかが目を疑う。(これには本当に驚いた)

・インド人スタッフにあれこれお願いするが、すべて頭を横に振られる。一筋縄ではいかぬ難しい奴等と思っていたら、これはすべて「OK!」のサインと知る。

・どっちなの? インドのYesは難しい。タージ・マハルはものすごいインパクト。壮大で、真白に美しく、細工が緻密で素晴



大理石の細工は美にお見事

らしい。事務所のスタッフはその子孫なのか、途端に彼らを見る目が変わる。

## 鹿角市によろしく!

BN 1174 尾崎 剛史

なため会の皆さま、こんにちは! 私は、平成8年度卒の尾崎剛史と申します。平成27年の春まで、コーチを務めさせていただきました。平成26年に何とか司法試験に合格し、平成29年の1月から、秋田県鹿角市の法テラス鹿角法律事務所<sup>かづの</sup>に弁護士として勤務しております。

さて、鹿角<sup>かづの</sup>をご存知のない方も多いかと思ひます。位置関係からいうと、秋田県の北東部に位置し、青森県や岩手県に接しています。旧国名は陸中で、もともとは南部藩の領地でした。

市を南北に、JR花輪線と東北自動車道が通じており、車での移動は比較的便利です。青森県の弘前市や岩手県の盛岡市まで、車だと1時間そこそこで行けますが、県都秋田市へは、車でも鉄道でも、2時間半から3時間ほどかかります。

鹿角市は、花輪盆地にあり、冬は例年1mほどの積雪があります。冬の寒さは厳しく、氷点下15℃くらいになります。秋田県内で最も寒い地域です。夏は短く、暑いのは7月、8月くらいです。

鹿角市に暮らしていて良いことはたくさん





八幡平の鏡沼で見られる通称「ドラゴンアイ」。5月下旬～6月上旬に現れる神秘的な光景で最近人気のスポットです。

あるのですが、何といっても、自然の豊かなところでしょう。少し足を延ばせば、多くの山に登ることができます。有名な山では、北は八甲田山、岩木山、西に行けば白神山、南に行けば、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳など、さまざまです。市の中心部から八幡平までは車で40分、秋田駒ヶ岳の登山口までは1時間程度で行けます。また、山に囲まれてい

るだけあって、鹿角市周辺には、無名ですが、魅力的な山もたくさんあります。

さらに、鹿角市は温泉も魅力的です。十和田湖のふもとの大湯温泉、南部の湯瀬温泉をはじめ、八幡平周辺には、後生掛温泉や志張温泉、鹿角市からは離れますが、仙北市の玉川温泉や乳頭温泉、岩手・八幡平市の藤七温泉など、多くの温泉場が存在します。

ですので、是非、なため会の皆さまに、鹿角市までおいで頂けたらと思います。山を楽しむ、ふもとの温泉で宿泊すれば、楽しいひとときを過ごせること請け合いです。秋田は、食べ物もおいしく、きりたんぼ鍋や鹿角牛、八幡平ポークなど名物も沢山あります。東京からですと、新幹線と高速バスを使って、4時間くらいで鹿角市に着きます。思ったより東京から時間はかかりませんが、機会があれば、周辺の山企画をしたいと思いますので、是非ご参加ください。

鹿角勤務もあと2年の予定ですので、その間にできる限り多くの山に登ってみたいと思います。

## 獅子の会

BN 683 横手 一男

昭和44年度ワンダーフォーゲル部を卒業した仲間たちです。還暦を迎えて毎年開催することになりました。第一回は2008年(平成20年)11月に日光湯元の休暇村に集まりま

した。参加者は11名で、相原兄、郡司嬢、鈴木正兄、鈴木義兄、堀井兄、西島兄、金原兄、森田兄、津布楽兄、吉田兄、横手の11名です。宴会場でそれぞれのスピーチが行われた。現況報告とこれからの歩みを懇談しました。その中で、西島兄が青春時代の思い出話に花が咲き、リーダー養成Wの印象が持ち出され、大丈田代(クビレ田代)に行こうと提案された。

翌年、2009年10月に同期会が伊勢志摩の鳥羽で開催され、伊勢神宮参拝をし、神霊の雰囲気に入る。11月に大丈田代(クビレ田代)に西島兄(町田市在住)、鈴木義兄(いわき市在住)、横手(東京在住)の3人が行くことになる。会津高原駅で集合して鈴木義兄の車で実川林道に向かう。矢櫃沢の南尾根から入る。藪をかき分けてやせ尾根に入りススタケの藪を漕いで田代近くの尾根を行く。猛烈なやぶである。残雪が藪をなぎ倒している場所もあった。大丈田代(クビレ田代)に残雪があった。田代を横切りテントサイト地を決める。樹林帯で水場も近く絶好のサイト地である。すぐに、サイトワークする。焚火をして体を温める。紅蓮の炎を見ながら学生時代の話に会話が弾む。西島兄、鈴木義兄は昭和43年以来的のクビレ田代である。横手は平成16年以来的の訪れである。南会津の自然は昔の儘の姿で迎えてくれた。木々のささやき、沢のすがすがしさ、湿原の青さである。辺りは次第に暗くなる。それでもなお焚火の暖かさを

味あう3人です。夜が更けてテントに入る。翌朝はゆっくり起きて朝食を摂る。田代を10時に出発して来たルートを下る。下りは読図をしながら歩く。無事に矢櫃沢橋に着き実川林道を下る。

2010年8月下旬、南会津松枝岐から実川林道へ今回は森田兄が加わり、西島兄、鈴木義兄、横手の4人となる。コースは前回と同じで田代の手前は尾根ではなく実川の沢沿いを歩くことにした。獣道を辿り、沢を越して藪を漕いでクビレ田代に出た。沢の流れは



クビレ田代にて (2010年)

相変わらずすがすがしい。昨年、場所にテントを設営した。焚火をして体を温める。学生時代と違い、ゆったりとサイトワークである。時の経つのが緩やかである。田代を10時に下る。来た道に戻る。11月は同期会が南伊豆の休暇村で8名が集う。下田周辺を散策して江戸時代の幕末の歴史に触れた。

2011年8月下旬に有志5名がクビレ田代に参加した。金原兄、森田兄、西島兄、鈴木義兄、横手である。5名はクビレ田代に1泊して、そのあと同期会が那須の休暇村で9名が参加しました。翌日は那須岳の登山でしたが雨のために中止しました。

2012年8月下旬に同期会が手白沢温泉で行われました。8名が参加で奥鬼怒山荘を見学しました。南会津は西島兄、鈴木義兄、森田兄の3名で中山峠、沼の平へ行った。

2013年7月下旬、南会津の計画は西島兄、鈴木義兄、横手の3人で天候の不良のためクビレ田代は中止し駒止温泉に行くことにした。それから、会津地方を散策した。このあたりから体力の限界がはじめたようだ。8月下旬は同期会が宝川温泉で9名が参加しました。谷川岳天神平までロープウェイで行き、さらにリフトで天神峠に行く。空模様は曇りがちでした。

2014年11月に田貫湖の休暇村で8名が参加して行われた。2015年7月下旬、南会津に西島兄、鈴木義兄、横手の3人がクビレ田代を計画したが、体力の限界を感じ始め

で中止にすることにした。檜枝岐村の民宿に宿泊して帝釈山、田代山に登る。翌日は台倉高山へ登る。この山はリーダー養成Wで登った山である。40数年経つので風景が様変わりしていた。見通しの良い湿原の周りが樹林帯となっていた。9月下旬に同期会が乗鞍の休暇村で行われ8名が参加した。上高地を散策して、翌日は乗鞍岳の畳平に行く。

2016年(平成28年)11月上旬館山の休暇村に8名が参加した。木村兄の案内で安房神社から野鳥の森を散策した。森田兄、横手は解散後鋸山に登る。展望が最高で東京湾を一望できました。

2017年10月下旬、近江八幡の休暇村に9名参加し、古希の催しとして江口先輩(昭和43年度卒)を招待しました。学生時代のよもやま話をいまだから話せることを聞きました。先輩は門司市に在住し悠々自適の生活をしています。

西島兄はスポーツ観戦とジム通いをしています。相原兄は地区のイベントや町会の手伝いをしていきます。佐藤兄は悠々自適です。金原兄も悠々自適で時に山に登ります。森田兄は山にかけています。堀井兄は今回、国宝の城めぐりです。鈴木義兄はいわきで福島原発事故で問題があります。農業を営んでいます。吉田兄はゴルフ三昧です。横手はいまだに山にこだわっています。中学生の部活動で卓球を教えています。同期会は幹事を代えて運営しています。毎年開催が楽しみです。

## 2017年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 幹事会・忘年会

■日時 2017年12月16日(土) 12時30分～14時30分 ■場所 明治大学 岸本・宮城ホール

### ◆式次第

#### ●幹事会

12:30 開会

一、幹事長挨拶

一、議事

第一号議案

2017年度 組織変更(案)の通り承認

第二号議案

2017年度 事業進捗報告の通り承認

一、閉会

#### ●忘年会

12:40 開会

一、会長挨拶

一、乾杯

一、歓談

一、部歌斉唱

一、校歌斉唱

一、写真撮影

14:30 お開き



新村 OB(181)  
による乾杯



幹事会の模様

◆出席者：44名(会員36名、学生8名)

#### ●会員：36名

|           |           |            |            |            |            |
|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| 181 新村 貞男 | 228 島林 順三 | 299 大内 善一  | 339 足立 康弘  | 351 渡邊 厚介  | 352 小川 吉次  |
| 451 山田 祥二 | 455 飯村 朋園 | 489 野村 司   | 494 木島 敏夫  | 495 深田 裕弘  | 501 前田 芳弘  |
| 505 椎橋 稔  | 527 池田 陽一 | 532 鈴木 正彦  | 538 佐藤 寛   | 558 奥村 勇一  | 601 池上 勝彦  |
| 661 大賀 徹雄 | 663 吉沢 利男 | 683 横手 一男  | 705 杉山 裕   | 717 住田 孔一  | 751 諏訪本 充弘 |
| 764 高橋 壽子 | 788 原田 博文 | 817 和賀井 英雄 | 835 猪狩 稔   | 871 平田 正博  | 879 井上 稔也  |
| 897 山下 仁志 | 909 谷 浩明  | 1115 上原 誠  | 1196 中村 宏之 | 1226 杉山 文啓 | 2120 鈴木 元典 |

#### ●学生：8名

主将 福澤 光浩 主務 奥山 昂 4年 藤井裕希恵 4年 吉田 理人 4年 大室 克磨 4年 平 将秀  
4年 沼田 直也 4年 栗木 大朗





## 2017年度（平成29年度）明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 組織

## 会 員 総 会

## 幹 事 会

|      |            |            |            |            |
|------|------------|------------|------------|------------|
| ■顧問  | 田村 敏夫(800) | 新田 功(1100) |            |            |
| ■部長  | 長峰 章(1000) |            |            |            |
| ■相談役 | 新村 貞男(181) | 小林 碧(197)  | 島林 順三(228) | 篠崎 徳量(241) |
|      | 大内 善一(299) | 西村 幸一(313) | 足立 康弘(339) | 吉田 修(345)  |
|      | 内田 吉成(392) | 紀伊辰之助(423) | 天野 俣明(477) |            |

## 運 営 委 員 会

|       |            |                 |                 |                |
|-------|------------|-----------------|-----------------|----------------|
| ■役 員  | 会 長        | 鈴木 正彦(532)      |                 |                |
|       | 副会長        | 奥倉 勇一(558)      | 大賀 徹雄(661)      |                |
|       | 幹事長        | 猪狩 稔(835)       |                 |                |
|       | 副幹事長       | 平田 正博(871)      |                 |                |
|       | 監 事        | 池田 陽一(527)      | 横尾 廣志(728)      |                |
|       | 駿台体育会理事    | 諏訪本充弘(751)      | 和賀井英雄(817)      |                |
|       | 参 与        | 奥倉 勇一(558)      | 横手 一男(683)      | 濱田 稔(795)      |
|       | 監 督        | 諏訪本充弘(751)      |                 |                |
|       | コーチ        | 井上 堅一(1064)     | 杉山 文啓(1226)     | 浜口小百合(1274)    |
|       |            | 諏訪部貴亮(1282)     | 前川 晃慶(1296)     |                |
| ■部 会  | 総務部        | (部長) 小田野義之(775) | (副) 原田 博文(788)  | (副) 平田 正博(871) |
|       |            | 龍 君江(838)       | 日暮 浩美(915)      | 松井 法一(974)     |
|       | 財務部        | (部長) 柳川 俊泰(792) | (副) 上原 誠(1115)  |                |
|       | 広報推進部      | (部長) 井上 稔也(879) | (副) 住田 孔一(717)  | (副) 加藤 章一(845) |
|       |            | 鈴木 康弘(487)      | 一色 雅男(570)      | 池上 勝彦(601)     |
|       |            | 石井 克太(614)      | 猪狩 稔(835)       | 日暮 浩美(915)     |
|       | 企画振興部      | (部長) 濱田 稔(795)  | (副) 丸山 貞二(859)  | 奥倉 勇一(558)     |
|       |            | 大賀 徹雄(661)      | 龍 君江(838)       | 平田 正博(871)     |
|       |            | 井上 堅一(1064)     |                 |                |
|       | 山小屋管理部     | (部長) 杉山 裕(705)  | (副) 小田野義之(775)  | (副) 植木 進(846)  |
|       |            | 唐川 拓三(850)      | 山口 直樹(1017)     |                |
|       | 事業運営部      | (部長) 山下 仁志(897) | (副) 安部 好洋(1006) |                |
| ■運営委員 | 飯村 朋園(455) | 前田 芳弘(501)      | 石井 克太(614)      | 野島 一雄(676)     |
|       | 龍 君江(838)  | 遠山 高広(858)      | 日暮 浩美(915)      | 松井 法一(974)     |
|       | 中村 央(1156) | 中村 宏之(1196)     |                 |                |

## 上記以外の幹事

## &lt;組織変更案 詳細&gt;

| 幹事会 提案期日    | BNO  | 氏 名   | 異動内容                |
|-------------|------|-------|---------------------|
| 2017年12月16日 | 700  | 坂本 清  | 顧問退任（平成29年6月16日 逝去） |
| //          | 566  | 松本 栄作 | 運営委員退任              |
| //          | 594  | 秋元 道別 | 運営委員退任              |
| //          | 956  | 池本 直人 | 運営委員退任              |
| //          | 976  | 成田 幸治 | 運営委員退任              |
| //          | 1086 | 大村 研  | 運営委員退任              |
| //          | 1196 | 中村 宏之 | 運営委員選任              |

## 〔新執行部紹介〕



藤井 裕希恵  
会計、4班 SL、装備・広報チーフ  
商学部商学科  
出身地：大分県  
県立大分上野丘高校



奥山 昂  
主務、装備・気象・手白係チーフ、2班 SL  
政治経済学部経済学科  
出身地：神奈川県  
明治大学付属中野高校



福澤 光浩  
主将、針生・送付係チーフ、3班 SL  
法学部法律学科  
出身地：神奈川県  
鎌倉学園高校



大室 克磨  
3班 PL、衛生係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：東京都  
都立国立高校



守屋 雄貴  
2班 PL、装備・手白係チーフ  
政治経済学部地域行政学科  
出身地：埼玉県  
城北埼玉高校



吉田 理人  
1班 PL、衛生・気象・手白係チーフ  
理工学部物理学科  
出身地：神奈川県  
聖光学院高校



今井 幹登  
1班 SL、針生係チーフ  
理工学部機械情報工学科  
出身地：神奈川県  
県立小田原高校



沼田 直也  
5班 PL、衛生・編集係チーフ  
情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科  
出身地：神奈川県  
県立生田高校



平 将秀  
4班 PL、装備・広報係チーフ  
文学部史学地理学科  
出身地：東京都  
都立神代高校



森山 澤鵬  
3班 SL、広報係チーフ  
政治経済学部経済学科  
出身地：大阪府  
上海市進才中学国際部



田中 雄大  
2班 SL、衛生係チーフ  
情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科  
出身地：東京都  
都立三鷹高校



林 薫平  
1班 SL、トレ係チーフ  
商学部商学科  
出身地：埼玉県  
大宮開成高校



乗木 大朗  
5班 SL、衛生・通信係チーフ  
文学部文学学科  
出身地：北海道  
道立北海道函館中部高校



武内 真  
5班 SL、気象係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：神奈川県  
桐蔭学園高校



朝倉 慶  
4班 SL、編集係チーフ  
政治経済学部政治学科  
出身地：埼玉県  
県立熊谷高校

## 新主将挨拶

福澤 光浩

この度2018年度の主将を務めさせていただくことになりました。主将として部員たちをまとめ、より良いワングルの一年間を作り上げていく所存であります。

既にご存じの方もいらっしゃるでしょうが、昨年度の夏合宿において山行中に大きな事故が発生してしまいました。事故の内容としては急坂を登っている最中に、一年男子部員が掴んだところ木が折れそこから40mほど滑落したというものでした。幸い彼の命に別状は無く、現在は怪我も完治しております。しかし、死亡事故となっても何ら不思議ではない事故が部内で起こってしまったことは重大に受け止めなければいけません。今までワングルでは安全講習や気象講習など、安全を確保するための活動を行っていましたでしたがそれでも不慮の事故は発生してしまうことがあるのだと痛感させられました。

さて、今年の執行部の方針は「部の一体化を目指す」、「安全対策の確立」、「目的の明確化」の三つとなっています。部としての活動方針を決め意識を統一しておくこと、先ほど述べたような事故をもう起こさない、起きてしまったとしても早急に適切な対処が行われるようにしておくこと、そのために普段どのようなトレーニングや指導を行うべきかを具体化することが大切であると我々執行部は考

えております。

私個人の印象としましては現在ワングルの部員はそういった目的のための活動に対しての意識が高い者が多いと見受けられるので、後輩たちには期待をしています。とはいえ個人間の意識の差は目立ってしまう部分もあるのだそういった差を埋めていくのが主将の腕の見せ所だと思っています。

最後に私事ではございますが10月28日にOBの前田様が経営されている西丹沢のキャンプ場にて行われた、なため会ワングルのBBQのお手伝いをさせていただきました。非常に設備の良いキャンプ場で素晴らしい大



先輩達の素晴らしいお話を拝聴させていただき、とても素晴らしい経験が出来たと思っています。(…これだけヨイシヨすれば大丈夫かな?)

冗談はさておき、諏訪本監督や井上コーチと同世代の先輩方から昔のワングルの姿を聞くことができ、改めてワングルの歴史の長さを感じ自分もその歴史を紡ぐ一人なのだと実感いたしました。一年間よろしくお願いいたします。

## 平成30年度現役指導スタッフ紹介

●部長：長峰 章

●監督：諏訪本 弘充 (106475)

●コーチ：井上 堅一 (106475) 杉山 文啓 (12821226)

浜口小百合 (12741064)

諏訪部 貴亮 (12821226)

前川 晃慶 (12961274)

## 年間行事予定

平成29年 10月 ワーク合宿 (済)

11月 秋合宿 (済)

平成30年 2月 スキー合宿

3月 春合宿

4月 新人歓迎W

5月 新人養成W

7月 初夏W

8月 正部員養成W リーダー養成W

9月 夏合宿 (地域未定)



## 現役部員数

|     |     |            |
|-----|-----|------------|
| 準OB | 16名 | (男13名 女3名) |
| 4年  | 15名 | (男14名 女1名) |
| 3年  | 14名 | (男13名 女1名) |
| 2年  | 13名 | (男10名 女3名) |
| 合計  | 58名 |            |

## 平成29年度卒業生歓送迎会のお知らせ

日時：平成30年3月11日(日) 12:30～15:00  
受付開始：12:00

会場：岸本・宮城ホール(明治大学リハビリタワー23階)  
会費：6,000円

## ■山小屋を利用したい方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘(手白小屋)

吉田 理人 070-6692-16756

奥山 昂 090-2551-6839

○針生山荘(針生小屋)

福澤 光浩 080-8023-0831

## ■主務連絡先

奥山 昂 090-2551-6839

Mwv2015natane@gmail.com

## ■投稿募集のご案内

日頃ご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
薫風では幅広い世代の皆様から投稿を募集しています。

## 【テーマは問いません】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、どしどしご投稿願います。

## 【投稿のスタイルも問いません】

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かります。また、前号では初めて一部をカラー化し、「ワンダラーのフォト日記」と題したスナップ形式のページを設けました。お写真に簡単なコメントを付けてご投稿いただだけでも大歓迎です。で、よろしく願います。

## 【広告も募集しています】

例えば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売で商品売をされている方からの広告なども掲載させていただきたいと存じます。

掲載スペースは1段、2段、3段(全段)の三種で、お値段は1段：1万円、2段：1.5万円、3段：2万円です。

さちんとした原稿でなくても結構ですので、お気軽にご相談ください。

|                |                |
|----------------|----------------|
| 1 段<br>10,000円 |                |
| 3 段<br>20,000円 | 2 段<br>15,000円 |

## 【応募先について】

次号(第57号)掲載分  
締切：6月30日(土)

送付先：巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN 879 井上稔也

## ■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

総務部アドレス：soumu@natamekai.org  
ファックス：03-5539-4245

平田 正博(87)

住所：〒270-0101 流山市東深井84-58

電話：090-5811-0189

メール：hirata@nikasas.co.jp

## 訃報

BN 526 文村宣司OBが平成29年3月27日にご逝去されました。

BN 767 小林栄一OBが平成29年5月2日にご逝去されました。

BN 707 森 誠仁OBが平成29年9月5日にご逝去されました。

BN 668 牛田英夫OBが平成29年10月25日にご逝去されました。

BN 548 守重芳樹OBが平成29年12月31日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

こんなこと  
知ってる？



## 校歌誕生の秘話

明治の校歌の成り立ちを語るには、やはり早稲田の存在を無視することはできない。今では学校に校歌があるのは当たり前のように思えるが、明治の校歌が作られた大正9年（1920年）頃は、校歌は必ずしも全ての学校にあるものではなかった。現に東京帝大にはなかったし、当時の明治大学のトップである木下友三郎学長が東京帝大出身だったこともあり、校歌がないのが自然であるという空気が蔓延していた。

しかし学生は不満であった。ライバルの早稲田大学には「都の西北」という立派な校歌があり、ボートや野球などで対戦する際に必ずと言っていいほど肩を組んで校歌を歌いだすのを見て悔しく思った明治の学生は次第に増えていった。そうした中から校歌を作ろうと立ち上がった3人の学生（武田孟、牛尾哲造、越智七三）が現れた。彼らは大学に掛け合い、学生の手で校歌を作って良いという承認を得た。

彼らは教授の紹介で当時の著名な詩人であった児玉花外に作詞を依頼することにした。早稲田のように大学側の人間である坪内逍遙や島村抱月がOBの芸術家に依頼して作った例とは異なり、明治は学生自らが交渉にあたることとなったが、明治の出身ではな

く武田らと交流などあるはずもなかった花外は、彼らの生い立ちや人間性に魅力を感じ、快く引き受けてくれた。

数日後に花外が完成させた詞は次のようなものであった（1番のみ）。

健児の風に打ちなびけ、実力養成の旗じるし

校の桜と散り行く学徒、明治、明治！

学の誇りは我等が明治！

彼らはこの景気の良い詞に大いに満足し、次に牛尾が大物作曲家である山田耕作のもとに走った。すでに誰もが認めるビッグネームとなっていた耕作を相手に牛尾は慎重に交渉を進めたが、ここで困ったことが起きた。耕作が国語体で書かれた詞では作曲できないので「詞を書き直したい」と言い始めたのだ。牛尾は作詞を引き受けてくれた花外のことを考え悩みに悩んだが、意を決して花外にその旨を打ち明けると、花外は快く書き直すことを認めてくれた。彼ら学生の立場や思いを考えた花外の人間的魅力を感じるエピソードである。今日の校歌の作詞者は花外とされているが、詞はこの後耕作等によって書き直されることになるので、これも正しくはないことになる。しかしこのエピソードを聞くと、花外の名前が残って良かったという気持ちになる。

さて、耕作は詞を書き直すことになるが、これは彼の専門外の分野であり容易にはいかない。にもかかわらず、彼は20日で詞を完成させた。そこには毎朝6時に耕作の家の門を叩いたという牛尾の熱意があった。牛尾にしてみれば、書き直すことを認めてくれた花外の温情に心えたいという思いでいっぱいだったの

たのだろう。

耕作の作った歌詞は次の通りである（1番のみ）。

白雲湧ける駿河台

鳴るよ時代の暁の鐘正義平和を突き出す

文明の潮開拓の維新維業の栄えになう

明治その名ぞ我達的心

MEIJI MEIJI 明治 明治 明治

明治その名ぞ 我等の誇り

そして耕作は、この詞を完成させた後さらに一人の詩人を紹介した。西城八十である。この八十も文学史に名を残す偉大な詩人であるが、耕作の紹介もあつて交渉は上手く進んだ。そして八十が書いたのが次の歌詞。

白雲なびく駿河台 眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮導きて とげし維新の栄えになふ

明治 その名ぞわれらが母校

明治 明治

明治 その名ぞわれらが母校

まさしく現在の校歌である。

作曲はもちろん耕作が行った。とはいえず、この校歌のメロディーは本来ベルギーで開催されたオリンピックに出場する選手を激励するために作られたものを、牛尾が耕作を説得して校歌にしてもらったのだという。

このように明治の校歌とは、ただの一学生に過ぎない男達の「学生の心をつにつにする校歌を作りたい」という熱い思いから生まれたものである。

※本文は2001年度明治大学付属明治高等学校  
中学校生徒会誌「過程」50号より引用しました。



# 寒中お見舞い申し上げます

昭和 39 年度卒業 山久会

## 編集後記

BN 717 住田 孔一

師走に忙しく年も押し迫り、世の中の北・北と騒々しさに対峙して白い山茶花が何事もないかの如く、しかもいつもより大き目の花を着けて咲きこぼれて居ます。なため会の皆様のこの年はどのような年でしたでしょうか。

薫風五六号は同期会を特集いたしました。日頃なため会行事に参加されないOB・OGも多数出席されて盛況なので、四代合同同期会や五三会の報告と愛媛県・瀬戸内・生島島のミカン農家・津国次正氏の寄稿を掲載いたしました。津国氏は農学部卒・昭和四十四年度入部、事情があつて三年時に途中退部されましたが、津国氏にもMWVの伝統に触れた体験と以後四十六年の人生がありました。

発行日 平成三十年一月

編集 鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦

石井克太 住田孔一 猪狩 稔

加藤章一 井上稔也 日暮浩美

発行者 明治大学体育会

印刷所 ワンダーフォーゲル部なため会

三協印刷株式会社